

「個人レポート」

[1 班 : 平野 愛子]

感想等

テーマ【男女共同参画の視点で考える地域防災】

今回の研修に参加し、防災は特別なことではなく、日常の学びの延長にあるということを改めて実感した。これまで、防災と聞くと自衛隊や消防など男性が中心となって避難所を運営する姿を思い浮かべていたが、講師の話を通して、男女共同参画の視点を加えることで、より多様な人々が安心・安全に暮らせる地域づくりにつながることを学んだ。特に印象に残ったのは、世代間や外国人移住者との間にある情報や意識の差である。高齢者は紙媒体や近所の声かけから情報を得ることが多く、デジタル情報には不慣れな方が多い。一方で若い世代は SNS などを通して情報を得ており、その手段やスピードに差がある。また日本語の理解が十分でない外国人住民が、避難情報や支援制度を知らずに孤立してしまわないような仕組みを整えることの重要性を実感した。こうした課題は、防災のみならず、地域における教育や学びの在り方にも通じるものである。防災は「命を守るための教育」であり、日常の中で学び合う姿勢が必要である。子どもたちが地域の高齢者と関わることで、防災の知恵や支え合いの心を自然に学ぶことができる。また、外国人住民にとっても、地域の行事や学びの場が、文化や言葉の壁を越えて安心して暮らせるきっかけとなる。私はこれまで、地域の中で人と人がつながる場づくりに携わってきたが、この研修を通して、その活動が防災教育の入り口になり得ることに気づいた。今後は、これまでに取得したファイナンシャルプランナー資格や教員免許を活かし、暮らしの安心や学びをテーマとした講座づくりにも取り組みたいを考えている。経済的な視点や家庭教育の視点を交えながら、防災を「生きる力を育てる学び」として地域に広げていきたい。防災とは、物を備えることだけでなく、人の心と知恵を育てることである。男女、世代、国籍を問わず、誰もが安心して学び合い、助け合える地域社会を目指して、今後も活動が続けていきたい。今回の研修は「暮らし・教育・命の循環」を改めて考える貴重な機会となった。

「自主研修実施報告書」

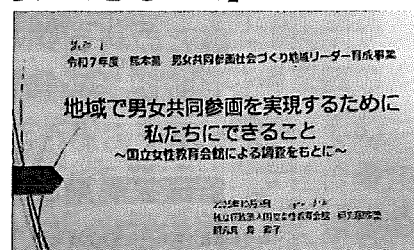
[班：平野 愛子]

日 時	2025年11月17日(月)
場 所	玉名市文化センター 研修室
参加者 (人数)	20人
形 式	報告会
ねらい	研修を通じて得たことを今後玉名での活動に活かしていくことの意味表明
内容	研修を終えての気づきと今後の活動について
感想等	私の前に市役所職員の方が資料を使い社会課題の話をされたおかげで、私の方は自分が感じたことや、今後玉名市で自分ができる範囲でまちづくりをしながら社会課題解決に向けて活動していくことをお伝えすることが出来た。30年前に研修に参加された女性の大先輩の方々が来場されており、研修に参加されたあと玉名で活躍されている女性の先輩方のお話もお伺いすることができて、改めて大変貴重な研修に参加させて頂いたことを実感することが出来た。 人権啓発課の担当の方が男女共同参画に関する資料を用意され、男女共同参画とは？を説明されたことも、会場の方々に認知していただける良いきっかけとなった。私自身の経験で友人のご主人の自死や元職場の社長の鬱、10代～20代の死因一位が自殺という現状が、少子化と言われている中、なぜ自ら死を選ぶのかが、自分自身がとても疑問視しており、日本社会の構造にねじれがあると感じている。人の命の根源からアップデートしていかないと、これからの未来を担う子どもたちが未来の社会に希望を持たないのではないかと危惧しているという話をしました。市役所職員の方が男性職員で男性目線での話だったので、会場に来られていた女性議員の方からてっきり女性職員かと思っていたので、男性議員にも声を掛けると良かったと仰っていたのが印象的でした。思い込みを取っ払うことがまず持つ大切だということが会場の皆さんの共通認識として共有出来たこともこれからの玉名市にとってとても良い機会になったと感じた。 今回玉名市では新たに3名の女性新人議員さんが誕生し、会場に来場されていたので、ご自身の活動内容とこれからの抱負を述べられ、会場全体で女性活躍推進するような雰囲気になった。これからの玉名市に期待すると共にこの学びを自分自身も身近なところから活かしていきたいと感じた。

「意見交換会レポート」

[1 班]

テーマ	「男女共同参画の視点で考える地域防災」
意見交換の柱、キーワード	①地域・防災・住民自治 ②世代間の差・男女不平等 ③外国人の移住者 ④避難所での女性・弱者等の被害への対応
地域の現状課題についての意見交換	第1班では、上記に掲げる4点について意見交換を行なった。 過疎で高齢化の地域では、住民自治は高齢男性のみで構成。防災講座も形式的にはされているが実用として活かされるのか疑問である。しかし総世帯数が多い地域では防災訓練参加者が6割程度で、災害時は避難場所がなく自宅避難を促している。防災計画には女性の視点が入りづらい状況。 また行政区の女性の区長や女性議員が男性議員の人数に比べて極端に少なく活動できない。しかし「避難所運営委員会」に女性の方の意見を取り入れ防災マニュアルに反映したり、防災マイスターを養成し、学校・公民館・地域などで防災方法や自治防災についての講演などを行なっている所もある。しかし外国人が増えている現在、外国人への防災指導が課題。 避難所での女性・弱者等の被害の対応については、避難所運営において備品や設備の面で女性への配慮不足がある。また男性による女性への威圧があったり、避難所での女性への被害（性被害など）がある。
課題解決に必要なこと	男性（特に高齢の方）は、女性の社会参画への理解を深める必要がある。また女性も多方面の社会・地域の課題に積極的に参画し、男女の区別なく共同できる社会にしていくべきである。誰もが自分の考え・意見が言える環境（雰囲気づくり）を作る。 地域防災の視点からは、近隣住民との日々の関わり（挨拶・情報交換）を持つことで、防災や災害時には共同参画に繋がる。外国の方とも日頃より会話できるコミュニティづくりをしていくことで防災にもつながる。
県外研修を受講しての感想・意見等	○講話1について（14：00～15：30） 島 直子氏（国立女性教育会館） 「地域で男女共同参画を実現するために私たちにできること」 1. 男女共同参画を実現するためには、地方自治体の政策を実行できる「仕組みづくり」を構築し、それを動かす「人材」が両輪となって動かすことが重要。地域で活動する団体・個人との繋がり・連携・協力が必要。 ・ポイント：信頼、情報をもっている所は、団体の活動なども知っている。 連携・情報共有できていない組織の見極めが必要である。 2. 地域活動団体・個人の強みと、自治体の強み ・ポイント：地域の団体の活用をする⇒団体代表者会議などもある。 そのような所で課題を出す。 感想：グループワークでは「繋がるにはどうしたらよいか？」の意見交換。 各班、活発な意見交換が出来ており有意義な意見の発表が出ていた。



○講話2について(15:40~17:10) 山脇 絵里子氏(共同通信社編集局次長)
「地域からジェンダー平等を~都道府県版指数をツールに」

永年、共同通信社に勤務されており社会の動きやジェンダー格差問題を明確に説明。

「男女の格差は人権問題」と明言されている。長く社会問題と向き合い、女性の視点で発信してこられた講話の内容は重厚で大変興味深い。

「言葉」で「社会課題」が認知され「法律制定」へ繋がる。

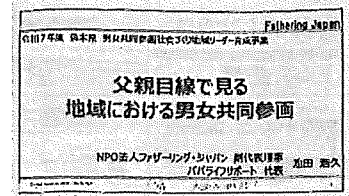
社会を変える為には「一人ひとりが声を上げ、行動すること」が大切と「地域からジェンダー平等研究会」を作り、都道府県版ジェンダー・ギャップ指数公表を実現。これにより都道府県別ジェンダー・ギャップ指数が分かるようになった。しかし、この指数で映せない問題も多くある。

ジェンダー平等を実現していくには、「同じ思いを持つ仲間を見つけて繋がり、声を上げて一步を踏み出すことが社会を変える一步である。



○講話3について(9:30~10:30) 池田 博久氏
(NPO 法人ファザリングジャパン副代理理事)
「父親目線で見える地域における男女共同参画」
「Fathering」=父親を楽しもう

日本は15年ほど人口減少が続いており、将来は多文化・他民族になるであろう。そして深刻な労働力不足が問題となるが、それに対する対策が必要となる。働く女性を増やすには、男性も育休を取り「家族のwell-being」につなげる必要がある。そのためには、社会の中で沢山の父親の居場所を作り、父親の新しい社会人としてのキャリア形成が必要となる。



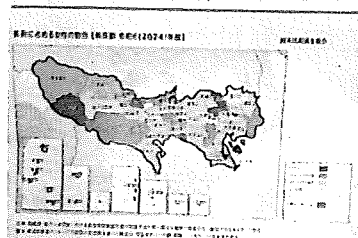
○「エセナおおた」との交流会:「男女共同参画の視点で考える地域防災」

1 班研修生と「エセナおおた」のスタッフ3名で意見交換会を行なった。

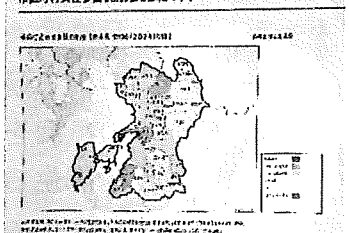
意見交換にあたっては事前に、各自の居住市町村の防災、男女共同参画に関する取組みを調べたものを発表し、「エセナおおた」のスタッフからは大田区の防災取組み状況や施設の防災について説明があった。



市区町村女性参画状況見える化マップ



市区町村女性参画状況見える化マップ



まとめ

今回の研修では、熊本県内各地の男女共同参画および地域防災についての現状・課題が明確になった。また講師の先生方の講話からの学びは、今後の私達の活動の大きな指針となることを確信した2日間であった。

令和7年度男女共同参画社会づくり地域リーダー事後研修

日時 令和7年12月8日 13:30～ 熊本県防災センターにて

◎研修報告発表



◎修了証交付

